

2019年度（2018年度実績）事務事業マネジメントシート(簡易)

総合計画  
施策番号

3-2-3

事務事業名	2丁目通街路整備事業関連事務	所属部門	建設都市整備課 建設係
町長公約			公約達成年次
簡易シートを選択した理由	<input checked="" type="checkbox"/> 予算を伴わない事業 <input type="checkbox"/> 計上予算が負担金・繰出金だけの事業 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業 <input type="checkbox"/> 今後3年間で大きな変化が見込まれない事業		

〔事業の概要・現状・課題〕

平成14年度から北海道で事業を推進しており、帯広市境の未完成であった北側歩道部の用地処理及び工事が完成したことで事業についても完了。

〔2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法〕

平成30年度をもって事業廃止。

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	事業費	国・道支出金	円					
		地方債	円					
		その他(使用料等)	円					
		一般財源	円	0	0	0	0	0
		事業費計(A)	円					
投入量	人件費	正職員従事人数	人	4	3	3	3	3
		人工数(業務量)	人工	0.0000	0.0005			
		人件費計(B)	円	0	3,899			
		トータルコスト(A+B)	円	0	3,899			

事務事業名	橋りょう長寿命化事業	所属部門	建設都市整備課 建設係
町長公約	橋りょうの長寿命化の推進	公約達成年次	

◆ 事務事業の目的と効果

<p>1. 手段(事業の概要) 今後橋りょうが急速に老朽化していくことを踏まえ、法令で定める5年に1回の近接目視点検とその結果に基づいた修繕を実施することで橋りょうの長寿命化を図り、誰もが安心して快適に利用できる道路交通環境の整備を図る。</p>
<p>2. 対象(何を対象にしているか) 町道認定路線に設置された橋りょう</p>
<p>3. 意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか) 橋りょうの点検・修繕を進めることにより、地域住民及び一般車両や大型農業車両による農産物搬出入の円滑化と安全確保を目指す。</p>
<p>4. 結果(意図のとおりになった場合、どんな結果に結びつくか) 橋りょうの長寿命化を図ることで、道路交通網の充実と安全性の向上が図られ快適な交通環境による事故防止と地域の生活環境の向上に繋がる。</p>

※各項目を評価するのにふさわしい指標を1つ以上設定  
(必ずしも3つの指標を設定する必要はありません)

5. 活動指標(手段や活動内容を表す指標)		単位
①	橋りょう点検数	橋
②	橋りょう修繕数	橋
③		

6. 対象指標(対象の大きさを表す指標)		単位
①	点検が必要な橋りょう数(5年間のサイクル)	橋
②	修繕が必要な橋りょう数	橋
③		

7. 成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位
①	点検済率(5年間のサイクル)	%
②	修繕済率	%
③		

8. 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)		単位
①	冬期間の移動は安全安心と感じる町民の割合	%
②		
③		

◆ 総事業費・指標等の推移

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	国・道支出金	円	41,272,000	38,067,000	49,260,000	58,530,000	56,610,000	51,450,000
	地方債	円		19,700,000	20,500,000	35,000,000	33,900,000	30,800,000
	その他(使用料等)	円						
	一般財源	円	27,594,922	7,080,832	17,346,000	9,420,000	9,240,000	8,900,000
	事業費計(A)	円	68,866,922	64,847,832	87,106,000	102,950,000	99,750,000	91,150,000
	人件費							
正職員従事人数	人	4	3	3	3	3	3	
人工数(業務量)	人工	0.3369	0.3540					
人件費計(B)	円	2,620,935	2,760,475					
トータルコスト(A+B)	円	71,487,857	67,608,307					
活動指標	① 橋		158	78	266	232	181	114
	② 橋		0	1	1	1	1	1
	③							
対象指標	① 橋		78	0	34	51	67	59
	② 橋		81	80	80	55	55	55
	③							
成果指標	① %		71	100	13	32	57	79
	② %		7	8	8	8	8	8
	③							
上位成果指標	① %		47.9	52.2	70.7	70.7	70.7	70.7
	②							
	③							

◆ 事務事業の現状と今後の取組

<p>1. 事務事業の現状と課題 社会資本整備総合交付金(国庫交付金)が要望額の通りに交付されないことから、事業の進捗に影響がでている。修繕が必要な橋りょう数が多いことから、財源の確保が課題となっている。</p>	<p>2. 今後の取組 (2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法) ・今年度施工を予定している芽室大橋については、前年度までの防災・安全社会資本整備総合交付金から国の施策である、国土強靱計画の一環である大規模修繕事業に切り替え国庫補助金の確保を実施していく。  ・遠方目視点検結果に基づき平成25年3月に策定された橋りょう長寿命化修繕計画を見直し、近接目視点検結果を反映させた橋りょう長寿命化計画を策定予定している。</p>
--	---

2019年度（2018年度実績）事務事業マネジメントシート(簡易)

総合計画  
施策番号 5-2-1

事務事業名	公共施設(付帯施設等)修繕等設計・積算事務		所属部門	建設都市整備課 建設係	
町長公約					公約達成年次
簡易シートを選択した理由	<input checked="" type="checkbox"/> 予算を伴わない事業	<input type="checkbox"/> 計上予算が負担金・繰出金のみ	<input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	<input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業	<input type="checkbox"/> 今後3年間で大きな変化が見込まれない事業			

**〔事業の概要・現状・課題〕**  
 各課で所管する公共施設の老朽化や破損が生じた際に、担当課では修繕方法やそれに要する費用などの実態を把握することが困難な場合について、各課の公共施設管理担当係と協議を行い、修繕方法や費用についてアドバイスを行う。

**〔2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法〕**  
 公共施設修繕等の協議や設計・積算については、主に土木維持係で実施しているが、大規模な修繕や新たな施設の整備、災害時における復旧工事等については、建設係も連携し実施していく。

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	事業費	国・道支出金	円					
		地方債	円					
		その他(使用料等)	円					
		一般財源	円	0	0	0	0	0
	事業費計(A)	円						
人件費	正職員従事人数	人	4	3	3	3	3	
	人工数(業務量)	人工	0.0138	0.1608				
	人件費計(B)	円	107,358	1,253,911				
	トータルコスト(A+B)	円	107,358	1,253,911				

事務事業名	郊外地道路新設改良事業	所属部門	建設都市整備課 建設係
町長公約		公約達成年次	

◆ 事務事業の目的と効果

<p>1. 手段(事業の概要) 郊外地における住環境の改善と町の基幹産業である農畜産業の作業効率の向上を目指し順次整備を進める。</p>
<p>2. 対象(何を対象にしているか) 郊外地の道路</p>
<p>3. 意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか) 道路整備により、地域住民及び一般車両や大型農業車両による農産物搬出入の円滑化と安全確保を目指す。</p>
<p>4. 結果(意図のとおりになった場合、どんな結果に結びつくか) 交通体系の充実と安全性の向上、緊急時における的確な交通対応や事故防止等の地域振興に繋がる</p>

※各項目を評価するのにふさわしい指標を1つ以上設定  
(必ずしも3つの指標を設定する必要はありません)

5. 活動指標(手段や活動内容を表す指標)	単位
① 整備路線数	路線
②	
③	

6. 対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位
① 整備延長	m
②	
③	

7. 成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
① 整備率	%
②	
③	

8. 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	単位
① 冬期間の移動は安全安心と感じる町民の割合	%
②	
③	

◆ 総事業費・指標等の推移

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	国・道支出金	円		18,409,000				
	地方債	円		65,800,000	160,300,000	193,450,000	224,500,000	185,800,000
	その他(使用料等)	円						
	一般財源	円	56,290,638	16,265,409	19,788,000	25,700,000	27,650,000	23,350,000
	事業費計(A)	円	56,290,638	100,474,409	180,088,000	219,150,000	252,150,000	209,150,000
人件費	正職員従事人数	人	4	3	3	3	3	3
	人工数(業務量)	人工	0.7627	0.7118				
	人件費計(B)	円	5,933,474	5,550,582				
	トータルコスト(A+B)	円	62,224,112	106,024,991				
活動指標	① 路線		3	4	7	9	9	9
	②							
	③							
対象指標	① m		799	888	2,160	2,433	2,450	2,770
	②							
	③							
成果指標	① %		75	75	75	75	75	75
	②							
	③							
上位成果指標	① %		47.9	52.2	70.7	70.7	70.7	70.7
	②							
	③							

◆ 事務事業の現状と今後の取組

<p>1. 事務事業の現状と課題 高度経済成長期に建設された道路の老朽化が町内で著しく進んでいることから、改良・修繕共に費用面において課題がある。</p>	<p>2. 今後の取組 (2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法) 平成22年度に策定された芽室町道路整備基準を今年度見直し、各整備路線の実態に沿った整備内容を確認させる。</p>
---	---

事務事業名	市街地道路新設改良事業	所属部門	建設都市整備課 建設係
町長公約		公約達成年次	

◆ 事務事業の目的と効果

<p>1. 手段(事業の概要) 市街地における円滑な交通環境と高齢者や身体に障がいをもつる方等に配慮した歩道整備など、誰もが安心して快適に利用できる道路交通環境の整備を図る。</p>
<p>2. 対象(何を対象にしているか) 市街地道路の整備延長</p>
<p>3. 意図(この事業によって、対象をどのようにしたいか) 道路網の整備や公共施設周辺のバリアフリー化を進めることにより、快適な住環境と誰もが安心して円滑に通行できる車道や歩道空間を確保する。</p>
<p>4. 結果(意図のとおりになった場合、どんな結果に結びつくか) 道路交通網の充実と安全性の向上が図られ、快適な交通環境による事故防止と地域の生活環境の向上に役立つ。</p>

※各項目を評価するのにふさわしい指標を1つ以上設定  
(必ずしも3つの指標を設定する必要はありません)

5. 活動指標(手段や活動内容を表す指標)	単位
① 整備路線数	路線
②	
③	

6. 対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位
① 整備延長	m
②	
③	

7. 成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
① 整備率	%
②	
③	

8. 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	単位
① 冬期間の移動は安全安心と感じる住民満足度	%
②	
③	

◆ 総事業費・指標等の推移

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	国・道支出金	円						
	地方債	円		58,000,000	104,800,000	146,800,000	143,500,000	141,300,000
	その他(使用料等)	円						
	一般財源	円	62,065,648	10,902,433	12,119,000	22,467,000	22,150,000	21,850,000
	事業費計(A)	円	62,065,648	68,902,433	116,919,000	169,267,000	165,650,000	163,150,000
人件費	正職員従事人数	人	4	3	3	3	3	3
	人工数(業務量)	人工	0.6720	0.8688				
	人件費計(B)	円	5,227,868	6,774,861				
	トータルコスト(A+B)	円	67,293,516	75,677,294				
活動指標	① 路線		3	3	4	6	6	5
	②							
	③							
対象指標	① m		510	618	614	969	946	960
	②							
	③							
成果指標	① %		97	97	97	97	97	97
	②							
	③							
上位成果指標	① %		47.9	52.2	70.7	70.7	70.7	70.7
	②							
	③							

◆ 事務事業の現状と今後の取組

<p>1. 事務事業の現状と課題 高度経済成長期に建設された道路の老朽化が町内で著しく進んでいることから、改良・修繕共に費用面において課題がある。</p>	<p>2. 今後の取組 (2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法) 平成22年度に策定された芽室町道路整備基準を今年度見直し、各整備路線の実態に沿った整備内容を確認させる。</p>
---	---

2019年度（2018年度実績）事務事業マネジメントシート(簡易)

総合計画  
施策番号 3-2-3

事務事業名	北海道用地対策連絡協議会参画事業	所属部門	建設都市整備課 建設係
町長公約			公約達成年次
簡易シートを選択した理由	<input checked="" type="checkbox"/> 予算を伴わない事業 <input type="checkbox"/> 計上予算が負担金・繰出金だけの事業 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 政策体系に結びつかない事業 <input type="checkbox"/> 今後3年間で大きな変化が見込まれない事業		

〔事業の概要・現状・課題〕

用地対策連絡協議会は、公共事業の施行に必要となる用地取得に関し、起業者相互の連絡を行い損失補償基準運用の調整及び損失補償に関する調査・研究・研修等を共同して行うため、起業者によって組織された団体であり、公共事業を推進するにあたり、用地の取得、支障物件の補償等の適正化と円滑化に寄与するための情報を取得し、適切な積算を実施するため参画する事業である。

〔2019年度及び2020年度以降の方向性・課題の解決方法〕

協議会では毎年補償基準や補償に係る単価を更新しており、適正で公正な補償評価を実施するためには本会に入会する必要がある。なお、協議会への負担金については、平成21年度より廃止となっている。

内訳		単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
投入量	事業費	国・道支出金	円					
		地方債	円					
		その他(使用料等)	円					
		一般財源	円	0	0	0	0	0
		事業費計(A)	円					
投入量	人件費	正職員従事人数	人	4	3	3	3	3
		人工数(業務量)	人工	0.0098	0.0175			
		人件費計(B)	円	76,240	136,464			
		トータルコスト(A+B)	円	76,240	136,464			